

平成16年9月定例会議事録(第3号)

平成16年9月8日 水曜日 午前10時00分開議

鈴木良雄 議長 鈴木小市 副議長

出席議員(21名)

1番	我妻昇	議員	2番	内谷重治	議員
3番	大道寺信	議員	4番	谷口栄子	議員
5番	佐々木謙二	議員	6番	安部隆	議員
7番	町田義昭	議員	8番	鳥谷政一	議員
9番	蒲生光男	議員	10番	渋谷佐輔	議員
11番	高橋孝夫	議員	12番	小関勝助	議員
13番	大沼久	議員	14番	鈴木小市	議員
15番	藤原民夫	議員	16番	鈴木武次	議員
17番	蒲生吉夫	議員	18番	佐々木榮七	議員
19番	島田友市	議員	20番	鈴木新助	議員
21番	鈴木良雄	議員			

+

欠席議員(0名)

説明のため出席した者

目黒栄樹	市長	長谷部宇一	助役
佐藤義夫	収入役	佐藤仁	総務課長兼選挙管理委員会事務局長
松本弘	財政課長	中井晃	企画調整課長
梅津敏昭	税務課長	小泉良一	市民課長
船山祐子	健康課長	宇津木正紀	福祉事務所長
勝見健一	会計課長	鈴木国男	消防主幹
飯田武志	監査委員	田中勝男	教育委員長
大滝昌利	教育長	安部嘉徳	選挙管理委員会委員長
長谷部惣一	農業委員会会長	梅津和士	農林課長
那須宗一	商工観光課長	浅野敏明	建設課長
平英一	管理課長	平進介	文化生涯学習課長
遠藤正明	農業委員会事務局長	青木修次	水道事業所長

+

堀 邦 夫 学校給食共同調理場長

沼 澤 厚 子 監査委員事務局長

事務局職員出席者

井 上 和 良	議 会 事 務 局 長	児 玉 行 宏	補	佐
五十嵐 恵美子	主 任	塚 田 知 広	主	事

議 事 日 程 (第 3 号)

平成 1 6 年 9 月 8 日 水曜日 午前 1 0 時 0 0 分開議

日程第 1 市政一般に関する質問

- 3 番 大道寺 信 議員
- 4 番 谷 口 栄 子 議員
- 1 5 番 藤 原 民 夫 議員
- 2 番 内 谷 重 治 議員
- 1 1 番 高 橋 孝 夫 議員

本日の会議に付した事件

+

議事日程 (第 3 号) に同じ

+

+

開 会

鈴木良雄議長 おはようございます。
これより本日の会議を開きます。

開 議

鈴木良雄議長 本日の会議に欠席の通告議員は
ございません。よって、ただいまの出席議員
は定足数に達しております。

本日の会議は、配付しております議事日程第
3号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

鈴木良雄議長 それでは、日程第1、市政一般
に関する質問を昨日に引き続き行います。

大道寺信議員の質問

鈴木良雄議長 それでは、順次ご指名いたしま
す。

初めに、順位6番、議席番号3番、大道寺信
議員。

(3番大道寺信議員登壇)(拍手)

3番 大道寺信議員 本定例会に当たり、通告
してあります2点について質問をいたします。

まず、第1点は、第4次長井市総合計画の一
つの柱でもある協働のまちづくりについてで
あります。

平成16年度版国民生活白書が6月に刊行され

ました。ことしの白書は、多様化した暮らし
のニーズにこたえて多様な動きを見せるNP
Oと、地方公共団体や企業が協働をどう広げ
るかにテーマを絞った内容となっています。

第1章では、地域住民が自発的に取り組んで
いる個別の事例、全国32団体の活動例を挙げ、
何を生み出しているかを分析しています。活
動例の中には、市で支え切れなかったバス運
行を住民が引き継ぎ運営するNPO法人「生
活バス四日市」、高知県の第3セクター、土
佐くろしお鉄道ごめん・なはり線のファンク
ラブをつくって応援し、さまざまなイベント
を企画、実行しているNPO法人「ごめん・
なはり線を支援する会」など、現在、長井市
でも参考になる事例が紹介されています。

第2章では、活動事例からその特徴や地域に
対する影響を整理し、そうした活動が社会的
・経済的にどのような意味を持つかを考察
しています。

第3章では、地域活動を支えるものとして、
人と人とのつながり、地方公共団体や企業と
の協働、活動を持続させる力としての参加
者・支援者、活動資金、信頼の問題について
の現状を分析し、活動をさらに促進させるた
めの課題をまとめています。

結びとして、「これまでの国や地方公共団体
といった「官」が創り上げてきた単一の「公
共」に対して、福祉や、まちづくりなどにお
ける特定の問題に関心を持ち、目的を共有す
る人々が自発的に活動して創り出す「公共」
はいくつもあり、それらが複層的に存在する
ような状況は新しい形の「公共」といえるの
ではないか。新しい形の「公共」は、住民の
自発的で多様な活動を中心として、地域の
様々な組織と対等の立場で協働することで創
りだされるのが最大の特徴である。そこでは
「公共」サービスの担い手は多様であり、そ
の内容も地域の人々を対象としたきめ細かな

+